

・Flim (神奈川県)

煙のないところに  
火は生まれていて  
ビンゴカードの15を  
漬す

根拠がなくともうわさが立つことはある。自分の知らぬところで、みなひとり一枚のビンゴカードをひそかに漬すように。そして唐突に響き渡るビンゴ。

・azusa (京都府)

秋の虹スーツでレストランに着る

大切にすべき相手との普段着ではない食事。秋の虹は淡くすぐに消える。やや硬い衣服の肌当りを感じながら、味も時間も虹のように彼方へ溶けていった。

・狛犬 吠 (岡山県)

古本のラベルみりみりと剥がして  
どんな時でも動いてる雲

剥がし跡が残りそうな「みりみり」。粘着力の強いシールをやつくりとかつ慎重に剥がすときの、よく目を凝らすと動いている上空の雲の速度。

・奥井 健太 (滋賀県)

冬近し絵を描く時のズボンです

絵具で汚してもいい作業用の雑なズボン。「です」は誰かに証明しているように

も聞こえて愛らしい。秋の終わりの空気に画材の匂いが濃く漂っている。

・深谷 健（埼玉県）

すぐ行きます。  
寂しい縄跳びの音です

大縄跳びの輪に入るタイミングをはかるように、暮らしを、社会を私たちは生きている。「すぐ行きます」と手を挙げて、懸命に縄の音に耳をそばだてる。

・互井宇宙論（埼玉県）

口のなかへ玉は運ばれ国となる  
あなたがいるところこそ彼方

くにがまえのなかに玉。古語で玉は美しい石であり、宝物を指す。あなたという存在の宝玉がいる場所こそがひとつの中であり、私はたちまち異国の人となる。

・快名（千葉県）

春風はあなたに貸され、返された  
そういうサドルの高さを漕いで

あなたが使ったあの春風は、あなたに使ったあの自転車のようにどこかが特別にかわっている。それはサドルの高さだけではなくて、なにもかもすべて。

・空音アオ（大阪府）

B2から南瓜を持って3Fへ

B2も3Fも地上で育った南瓜には未知のフロア。本来なら下に位置するはずの「B2」が初句、「3F」が結句に置かれている視覚的な倒錯もおもしろい。

・池田 彩乃（青森県）

曇天の庭で指環が外れそう

空間を垂れこめる曇天のくらい圧力と、指よりもすこし大きな指環。ぶかぶかとした感触は指を不安にさせながら、同時に自由にもさせる。この小さな庭で。

・伊田 鮎（東京都）

鶏頭の襞の奥へと詩を書きに

毛深い花序が幾重にも襞を畳む鶏頭。花束には嫌われるが、詩歌の素材としては好まれてきた。襞の奥はふかぶかとあたたかそうだ。詩作のための秋の小室。